



胆嚢粘液嚢腫

■ 病気の概要

胆嚢（たんのう）は肝臓の下にある小さな袋で、消化を助ける胆汁を貯蔵する臓器です。胆嚢粘液嚢腫は、胆嚢の中に粘液（ムチン）が異常に蓄積してゼリー状になる病気です。シェットランド・シープドッグ・コーギー・ミニチュアシュナウザー・ビーグルに好発します。放置すると胆嚢が破裂し腹膜炎を引き起こすことがあります。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・ 初期は無症状のことが多い
- ・ 嘔吐・食欲不振
- ・ 元気がない
- ・ 腹痛（お腹を触られるのを嫌がる）
- ・ 黄疸（白目・歯茎が黄色くなる）
- ・ 急激な状態悪化（破裂した場合）

■ どんな検査をするの？

- ・ 腹部超音波検査（胆嚢内の特徴的な像を確認）
- ・ 血液検査（肝酵素の上昇）
- ・ 必要に応じてCT検査（専門施設をご紹介します）

■ 治療方法

内科治療

- ・ ウルソデオキシコール酸（補助的治療）の内服
- ・ 肝保護薬の内服
- ・ 破裂リスクが低い軽症例では経過観察

外科治療

- ・ 胆嚢摘出術（根治治療・腹腔鏡または開腹）

■ ご家庭で気をつけること

- ・ 定期的な腹部超音波検査（年1～2回）で変化を把握する
- ・ 脂肪分の少ない食事を心がける
- ・ 黄疸・急激な元気消失は緊急のサインです。すぐにご連絡ください

■ よくある質問

Q. すぐに手術が必要ですか？

A. エコー所見・症状・血液検査を総合的に判断します。破裂リスクが高い場合は早めの手術をお勧めします。

Q. 手術のリスクは？

A. 破裂前の手術は比較的安全です。破裂後の緊急手術はリスクが大きくなります。

Q. 定期的な検査は必要ですか？

A. はい。定期的なエコー検査で変化を早めに把握することが重要です。

Q. 術後の生活は？

A. 胆嚢を摘出しても通常の消化に支障はありません。術後は低脂肪食を当面継続します。

■ なつ動物病院での診療について

胆嚢疾患の診断・手術に対応しています。エコー検査で胆嚢の変化を指摘されたことのあるワンちゃんは、定期的なモニタリングをお勧めします。気になることがあればご来院ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください